

やまぐち学園だより

やまぐち学園教育目標:発見、はくくみ、かたちにする学びの広場
めざす人間像:よい未来を共に創出す人間

第2号 2020年6月24日(水)

山口大学教育学部附属幼稚園

〒753-0070 山口市白石三丁目1番2号 TEL 083-933-5960

山口大学教育学部附属山口小学校

〒753-0070 山口市白石三丁目1番1号 TEL 083-933-5950

山口大学教育学部附属山口中学校

〒753-0070 山口市白石一丁目9番1号 TEL 083-922-2824

はじめての経験

附属山口中学校長 末永勝明

“We all fear what we don't know, Freddie. It's natural.” (「知らないことは誰だって怖いものだよ、フレディ。自然なことさ。’) 『葉っぱのフレディ』の中のダニエルの言葉です。私たちはこれまで経験したことのない状況に置かれた時、誰もが不安を感じ、どう対処したらよいかわからなくなるのはごく当たり前のことなのかもしれません。

新型コロナウイルスの感染拡大による全国一斉の学校休業要請、そして新年度開始直後の再休業、6月もうすぐ終わろうとしています。あまりにも長かった臨時休業で、実質、新年度が始まってからまだ1月しか経っていません。

休業が長期化したことは決して喜ばしいことではありませんが、そのことによってこれまで全く考えもしなかったことについて考えたり、見えなかったことが見えるようになったりしたことは事実です。

まずは、休業中の学習を保障するための支援の在り方です。これまでも冬期にはインフルエンザによる休業措置をとることがありました。地域で流行の兆しがあると、教科担任はもしもの時に備え、あらかじめ家庭学習課題を用意します。インフルエンザによる学級閉鎖や学年閉鎖は長くても4、5日です。学習課題は復習を中心とした学習プリントで対応してきました。

しかし、今回は1ヶ月、さらに1ヶ月半という長さです。到底復習を中心とした学習プリントだけで対応できる状態ではなくなります。あわせて学習状況の把握も必要になってきます。また、生徒の心身の様子を確認するために1週間に一度電話連絡をすることにしましたが、35人に電話をかけるとなると一人5分としても3時間程度かかります。1クラスでこれくらいかかるのですから、12クラスとなると...。学校の電話回線の数も限られています。まさに、これまでの経験をもとにした対応だけでは通用しない状況がありました。

そこで、本学校園においてもオンラインによる双方向での対話による児童生徒の健康観察や学習教室を開くことにしたのです。期間は本当にごくわずかだったのですが、このことによって得られたものは多くあったように思います。



体育館での眼科検診

現在、学校は再開していますが、今後の課題も多くあります。その一つが学校行事のもち方です。授業時間確保との関わりや、感染症対策を考えた上で中止や縮小について検討していきます。今のところ中学校では十分な感染防止対策を講じた上で、学園祭(体育祭と文化祭)は実施する予定です。ただし、これまでの学園祭をイメージしたのでは開催することは無理な状況です。開催時期、開催時間、また、公開の可否なども含めて、ゼロベースで新しいものを創り上げていかなければなりません。そしてそれは今年に限ってのことかもしれません(そうあってほしい)が、もしかすると、来年度以降の新しい行事の様式として、今年度の取組がファーストモデルになるかもしれません。

今年、そして来年の『9月入学』は拙速であるとして見送りになりました。良い悪いは別にして、学校休業がこれほどまでに長期化しなければ、おそらくこのような議論はしばらくは出てくるはずもなかったことでしょう。その他、私たちの働き方や、子どもの学び方もそうではないでしょうか。これまで考えもしなかっただろうことがつぎつぎとあがってきました。このたびの「コロナ禍」が新しいものを創り出すきっかけとなればよいと思います。

予測不可能な時代、まさにそれが今であると感じます。生徒はこれからそのような時代を生き抜いていかねばなりません。自分たちの力でその時々をよりよく生きる力を身につけることが今にも増して求められるでしょう。

前述のとおり、中学校では学園祭の実施内容と方法を検討中です。生徒には「どのようなことができるかを考え、提案してほしい」と投げかけています。私たち教員はもちろんですが、それ以上に生徒からさまざまな提案がなされ、生徒が自らの手で創り上げる学園祭になることを期待しています。

【附属幼稚園】

園が再開し、幼稚園に来るのを楽しみにしていた子どもたちはみんな元気に登園しています。新型コロナウイルス感染拡大防止のための手洗いやマスクの着用を子どもたちなりに受け入れ、気を付けている様子も見られます。梅雨入りしましたが、天気の良い夏日の日も多く、少しでも過ごしやすいように、保育者が園庭の遊び場に陰をつくったり、水に触れて遊ぶ環境を用意したりなど工夫しながら過ごしています。今月は夏の始まりを水や水中の生き物に親しみながら楽しむ子どもたちの姿を写真でお伝えします。



井戸からくみ上げた水を池に引いて水遊び。

大きな水槽に水をためて遊べるように。



プールにいたオタマジャクシやヤゴを救出して観察。



【附属小学校】

3か月もの臨時休業が明け、子どもたちの元気な声が響き渡る小学校がかえってきました。感染予防対策のため、マスクの着用や水泳授業の中止など、昨年度とは異なる学校生活となっています。しかしながら、様々な教育活動の制限がある中で、運動場で友達と遊んだり、学んだりしながら、少しずつ、現在の学校生活に慣れていっているようです。子どもたちの今後の学びを支えるため、学校と家庭、地域が協力して取り組んでいきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひいたします。



ZOOMを使うことで、給食指導も可能となりました。



しっかりと遊んで体力をつけています。



マスクを着用し、気を付けて生活しています。

【附属山口中学校】

学校が再開して一ヶ月が経ちました。部活動も再開し、学校では生徒たちの笑顔があふれ、元気な声が響き渡っています。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、密を避けながらの生活やマスクをつけての授業など、当初は戸惑いを感じる生徒もいましたが、机の間隔を確保してグループ活動を行ったり、休み時間に手洗いをしたりするなど、生徒たちが日々の学校生活の中で「新しい生活様式」の実践を心がけていました。

手洗い、消毒を心がける習慣が身に付きつつあります。



授業でも、「密」を避けながら活動をしています。



休校期間中は各学年、オンライン会議システムを使った授業が行われました。